室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

2008年四川大地震後の被災教員の経験とその特徴：発災5年目の現地インタビュー

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 室蘭工業大学 公開日: 2014-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): interview with suffering teacher, 2008 Sichuan great earthquake, tendency of story 作成者: 賈, 冉, 前田, 潤 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/2839

室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

2008年四川大地震後の被災教員の経験とその特徴 ：発災5年目の現地インタビュー

その他（別言語等）のタイトル	Characteristic of the Experience of the Suffering Teachers after 2008 Sichuan Great Earthquake : Based on the interview in affected area at 5th year
著者	賈　冉, 前田　潤
雑誌名	室蘭工業大学紀要
巻	63
ページ	135-143
発行年	2014-03-18
URL	http://hdl.handle.net/10258/2839

室工大紀要第 63 号（2013）135~143

研　究　報　告

2008 年四川大地震後の被災教員の経験とその特徴
－発災 5 年目の現地インタビュー－

賈　冉[*1]，前田　潤[*2]

Characteristic of the Experience of the Suffering Teachers after 2008 Sichuan Great Earthquake
-Based on the interview in affected area at 5th year –

RAN　JIA[*1]，　Jun　MAEDA[*2]

(原稿受付日　平成 25 年 6 月 28 日　論文受理日　平成 26 年 1 月 24 日）

Abstract

We could contact and interview with 10 suffering teachers at the affected area by 2008 Sichuan Great Earthquake. Those who lived in crucial damaged area at the time of earthquake tend to avoid the story just after the earthquake and also those who lost or injured their family member tend to avoid the story of family. Though each of interviewers have been experiencing and living various type of stresses and situations, interviewers who feel to live comfortable life by the will of government and people represent their gratitude. Those who didn't receive special support and those who made new family tend to talk their daily life stress.

Keywords : interview with suffering teacher，2008 Sichuan great earthquake，tendency of story

1　はじめに

2008 年 5 月 12 日中国時間で 14 時 28 分 04 秒、中国四川省汶川県でマグニチュード 8.0 注 1 の地震が発生した．中国民政部注 2 の報告によれば、この地震による死者は 6 万 9,227 人、負傷者は 37 万 4,643 人に上り、1 万 7,923 人がなおも行方不明となっている(1). 今回の地震は 1949 年に中華人民共和国（以下中国）が成立して以来、最大級の被害を受けた地震であった．例えば、被災面積は 44 万平方キロメートルで、これは日本の総面積より広く(2)、その破壊力は阪神・淡路大震災（マグニチュード 7.3）の約 30 倍であった(3)．死傷者の総数も中国史上最大の約 46 万人で、被災者数は 4,624 万人に上回っている．

四川省北川羌（チャン）族自治県という地域は、今回の地震災害で最も大きい被害を受けた地域の一つで 15,645 人の死者があり、今回の地震の死亡者数全体の約 22.6%を占めていた．そして町は完全に破壊された（図 1）．北川県老城区注 3 の約 80%の建物、北川県新城区注 3 の約 60%以上の建物が破壊された．この老城区及び新城区（図 2）を併せて曲山鎮と呼び、ここがいわば北川羌（チャン）族自治県の県庁所在地であった．本震以降、長期間余震が続き、土砂崩れによって川が堰きとめられて地震湖が生じ、曲山鎮はもっとも厳しい被害状態となった．

*1 公共システム工学専攻
*2 室蘭工業大学 ひと文化系領域

2008 年 5 月 22 日、当時の国務院[注4]総理である温家宝が北川の被災状況を視察したときに、新しい北川を作ると発表し、2008 年 6 月 11 日に国務院の合意を得て汶川地震における復興支援法案を策定し、山東省が四川省北川県の再建を支援することにした[(4)].

2008 年 11 月、以前の県庁所在地であった曲山鎮から 23 キロ離れた広大な土地に、新しい町を建設することを決定し、当時中国の総書記である胡錦濤によって「永昌鎮」[注5]という名が付けられた[(5)]. この土地に決定したのは、まず、安全の観点から、四川の龍門山断層帯[注6]から離れるためである．そして、経済的観点からみると、四川省の第二の都市である綿陽市から約 40 キロメートルと割に近いので、北川県の経済的発展に寄与でき、北川県の災害復興が早く終わることができると考えたのである[(6)].

これは地震後の唯一の「 異地重建」の町である．異地重建とは、災害などよって破壊された町をそのまま再建するのではなく、別の新しい場所に町を建て直すことを言う．2009 年 5 月 12 日に、まず北川中学の再建が始まり、一年間半後の 2010 年 9 月に、新しい永昌鎮という町が完成した[(7)].

2008 年の四川大地震では、四川省の生徒ら若年者の死者・行方不明者は 5,335 人と報道された[(8)]. 特に、曲山鎮にある曲山小学校（図 3）は 1,023 人の児童のうち約 400 人の死者や行方不明者が出た．また、16 名の教員の死者があり、負傷者は 14 名であった[(9)]. 生き残った教員らは、大震災の被害を受け、親戚、友人、同僚を失った悲しみに耐え、約 40％の生徒が亡くなった現実、住んでいた町の変化などの厳しい状況に直面した．

図 1　曲山鎮震災前後の比較

（この図は本研究者が曲山鎮に掲示されている写真を撮影し、作成したものである）

図 2　曲山鎮の市街
（本研究者が 2011 年 12 月に撮影）

図 3　曲山小学校地震遺址
（本研究者が 2011 年 12 月に撮影）

2　本研究の課題

2008 年の四川大地震では、北川県が最も被害が大きく、学校現場で多くの児童、生徒が亡くなっている．教員も被害にあった．震災から 5 年が経ち、そして新たに 2013 年 4 月 20 日にまた大きな地震が四川省雅安を襲った．

本研究では、四川大地震当時から現在まで経験した生活状況と、新しい地震が、被災者に与えた影響について明らかにすることを目的に、学校関係者から聞き取り調査を行った．

3　方法

まず、四川大震災の状況を事前に文献およびインターネットで情報収集し、次に、北川県永昌鎮の事情に詳しい専門家にコンタクトをとって、その調整の下で現地学校関係者にインタビューを実施した．

現地に関する調査は、2011 年 12 月に四川師範大学で第 3 回日中災害事例研究会が開かれ、その際に、大きな被害があった曲山鎮を訪れ、被災状況を観察した．現在、この曲山鎮は多くの人が犠牲者を追悼できるように記念碑が建てられ、観光地のように訪問者に開かれ、崩れた建物の下にまだ眠る多くの犠牲者に花や線香を手向けることができるようになっている．

また、インターネットで、北川県の被災状況や被害程度、復興支援や町の再建に関するデータを入手した．

被災者へのインタビュー調査を実現するために日中災害事例研究会の世話人である吉沅洪氏（立命館大学応用人間科学科教授）から、北川県の事情に詳しい専門家として陶新華氏（中国蘇州大学心理保健センター長、教育学院副教授）の紹介を受け、その後、直接、陶副教授とコンタクトをとった．陶副教授は心理学の専門家として、四川大地震で被害を受けて新たに再建した小中学校の教員に向けて何度もポジティブ心理学[注7]の講義を行ってきている．そこで陶副教授にメールで依頼し、永昌鎮でインタビュイーとして適切な学校関係者を選んで頂いた．

実際にインタビューを実施する前に対象者に向けた承諾書を作成し、インタビューでの調査項目を立て、インタビュー協力者に支払う謝金を用意した．また、謝金は、一人当たり 20 元、インタビュー時間は特に定めなかった．

調査項目は、個人属性、2008 年の四川大地震、2013 年の雅安地震の状況、政府と民間団体からの支援などを含めて、表 1 として示した．

表 1　調査項目

個人属性	
氏名	性別
年齢	民族
職場	担当
家族	住居
2008 年の四川大地震	
被害状況	当時状況
救援期状況（テント生活）	復興期状況（永昌鎮）
2013 年の雅安地震の状況	
政府と民間団体からの支援	

4　結果

現地でインタビュー調査を実施したのは、2013年5月9日から5月10日までで、四川省北川羌（チャン）族自治県永昌鎮の永昌小学校で10名の学校関係者に行った．

インタビューが実現するまで、仲介者の陶副教授には、調査項目の検討をしていただいた．その結果、調査項目として、政府の支援に関係することは除外された．また、北川羌（チャン）族自治県の教員研修学校の学校長が地元の仲介者となり、幾つかの幼稚園、小中学校を陶副教授と周り、最終的に永昌小学校が対象校となった．

表2　調査結果

氏名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
性別	女	男	女	男	女	男	男	女	男	男
年齢	50	47	45	55	32	39	59	41	49	48
民族	羌族	羌族	漢族	漢族	漢族	羌族	漢族	羌族	漢族	羌族
震災当時の職場	桂溪にある小学校	曲山小学校	曲山小学校	安県黄土鎮の小学校	曲山鎮近郊の病院	安県黄土鎮の小学校	曲山小学校	曲山小学校	安県黄土鎮の小学校	曲山小学校
震災当時の担当科目	数学	国語	数学	国語		数学		数学	数学	
震災当時の役職		リーダー	クラス担当	クラス担当		クラス担当				教務主任
現在の担当科目	数学	国語	数学		保健	数学	科学	数学	数学と科学	
現在の他の役割		学籍管理、教務副主任		寮生の管理	保健師				クラス担当	副校長及び教務主任
震災前の家族成員	夫と息子	妻と娘	夫と息子		夫と娘	妻と息子	妻と息子	夫と息子	妻と娘	妻と娘
震災前の住居形態	会社のマンション	自宅	自宅	自宅	病院の寮	自宅		自宅	自宅	
震災前の住所	曲山鎮	曲山鎮	曲山鎮	安県黄土鎮	北川県の田舎	山村	曲山鎮	曲山鎮	安県黄土鎮	曲山鎮
現在の家族成員	内縁の夫と息子	妻と娘	後夫、継子と息子		夫と娘	妻と息子	息子	夫と息子	妻と娘	妻と娘
現在の住所	永昌鎮	永昌鎮	永昌鎮	永昌鎮	永昌鎮	永昌鎮	永昌鎮	永昌鎮	安県	永昌鎮
被害状況	夫死亡		夫死亡			岳父死亡	本人と妻重傷			娘の脚切断

永昌小学校では、校長と副校長に協力をいただき、副校長のオフィスで学校関係者に 1 対 1 でインタビューを録音しながら行った．インタビューは一人約 30 分ほどであった．

2008 年の地震から 5 年間が過ぎたが、インタビュイーのほとんどは、当時の状況を自ら詳しく思い出して語ろうとはしなかった．

4.1　個人属性と被害状況

個人属性と 2008 年四川大地震での被害状況については表 2 にまとめた．

4.2　2013 年雅安地震の状況について

インタビュイーは、2008 年の地震の経験があるので、2013 年 4 月 20 日の雅安地震のときは 5 年前の地震の様子が思い浮かべていた．そして、山東省の援助を受けて建てた建物の耐震性を信じ、避難を見合わせした人もいた．地震後、遠方の親戚や友人の安否確認の連絡をし、また、被災地でボランティア活動を希望したり、援助金を寄付した人もいた．

4.3　2008 年四川大地震発生直後

2008 年の四川大震災については、当時の状況を思い出したくないために回避した教員もいたが、一部教員から情報提供を得ることができた．

表 2 より、10 名の学校関係者のうち、5 名は地震当時に曲山小学校で働いていた(B、C、G、H、J)．3 名の学校関係者は永昌鎮として再建された同じ場所である黄土鎮というところの山村教員であり(D、F、I)、1 名は曲山鎮付近の桂渓小学校という小学校で働いていた(A)．残り 1 名は曲山鎮付近の病院に勤めていた(E)．

この 5 名の曲山小学校教員の記憶によれば、地震発生時は昼休みが終わったところで、曲山小学校の生徒たちは《紅領巾電視台》という学校が制作したテレビ番組を見ているところだった．したがって、生徒たちは皆教室にいた．学校の建築物の耐震性が弱く、近くにある山は地滑りが発生し、大勢の生徒と教員は避難中に怪我か遭難し、生徒たちも泣いて怖がった．地震後、学校の教員集団の中でリーダー的役割の人がすぐに教員たちを組織して救援活動を行った．しかし教員達だけの力では僅かな被災者しか救出できなかった．

インタビュイーは 2008 年の震災当時の自分の家族について話すことはほとんどなかった．ただ C はインタビュー中で当時の家族の状況に言及した．彼女の話では「自分の家は地すべりにより埋もれてしまい、記憶と残っていた建物から自分の家の位置を判断することしか出来なかった．現在も当時の状況を思い出すと、涙が止まらない．しかし、地震当時は涙も出なかった」とのことであった．

さらに、山村教員の D、F、I の 3 名の教員の話によると、地震当時は北川老県城曲山鎮に比べて揺れは弱く、在職していた学校で死亡した人はいなかったが、建物は強く揺れたので、屋根の瓦が数多く落ちてしまった．また、通信途絶は当時の最も重要な問題であり、山奥にある村に住んでいたため、親戚との連絡はすぐに取れなかった．そして、救援者がいつ来るかも分からなかった．情報はラジオの放送から得るしかなかった．また F によると、地震が発生直後、家族に連絡するため、何日間も、2 時間以上かけて山頂近くまで歩いた．それでも、電波が弱く、電話が通じないことが多かったとのことである．

インタビュイーに共通する点は、教員という職業として地震当時は生徒たちの安全と救助に集中したということである．そして、自分の家族のことは生徒たちが安定してから考え始めたのである．

また、当時の曲山小学校の教務主任の J によれば、地震の後、生徒の家族たちの多くが、自分の子供を捜しに学校に来ては、子供が見つからないことの責任を教員達に問いつめた、ということである．

4.4　四川大地震の救援期

地震後、曲山小学校で生き残った教員や生徒たちは、827 人民解放部隊の教導大隊の駐屯地に配属された．そして、2008 年 5 月 21 日にはそこに「総装備部·綿陽八一野外テント学校」[10]という学校を臨時に開校した．2010 年 9 月新学期がはじめるまでの 2 年間、元曲山小学校の 5 名の教員達は皆そこで働いた．H は、「当時の仕事は結構大変で、教科を教えることだけではなく、生徒たちの生活状況を隈なく調べ、心理学専門家が協力して支援を行った」と述べた．さらに H は「親戚や親しい人を失った生徒は昼間には他の生徒と一緒に授業を受けるが、夜になると、泣いたり、騒いだり、両親を探すなどの例が多発した．そしてそのとき H は、綿陽市市内に自宅があったが、月曜日から金曜日まで家に帰ったことがなく、母代わりに生徒たちが寝付くまでずっと隣にいて、その後で、他の教員たちと一緒に次日のスケジュールについて 12 時を過ぎるまで打ち合わせ、やっと就寝することが多かった．」と述べた．

また黄土鎮にある小学校に居た I によれば、臨

時に2008年9月まで黄土鎮の小学校は重慶市に移転し、この間学校は耐震点検と補強工事を行った．2008年9月から2009年9月までは元の小学校に戻っていたが、2009年9月からは安昌鎮の小学校に転勤し、続いて2010年9月には永昌鎮にある永昌小学校（図4、図5）に転勤し、現在に至っている．

図4　永昌小学校
（本研究者が2013年5月に撮影）

図5　永昌小学校
（本研究者が2013年5月に撮影）

次にAの話によれば、Aは2008年5月20日には桂渓にある元の小学校に戻ったが、当時は仮設の小学校で授業の再開の準備を行った．一部の生徒は学校に来ることができず、家居したままという状況にあり、教員たちをグループにわけ、家庭訪問を行い、生徒たちや家族の被害状況を把握した．また、地震発災時に学校にいた人は直接の被害は受けなかったが、教員や生徒たちの家庭の被害状況が甚大だった．地すべりのため、山の麓に家がある生徒たちは両親を失い孤児になってしまった．従って、学校は再開されたが、初めは生徒たちの心理的支援に重点を置いた授業を行った．秋の授業が始まってから、通常に授業が行われた．

またBとGは地震によって負傷したため、武漢市と重慶市の病院で短期の治療を行った．治ってから827人民解放部隊の教導大隊の駐屯地での野外テントによる学校での仕事が始まった．しかし、2010年にGとその妻は、交通事故に遭い、妻は死亡、Gも重傷を負った．病院の医師によれば、回復には5年の期間が必要だとのことである．Gは自分は楽観的な人間で、二回の災難にも頑張って生きてきた．しかし、当時の地震に関することは思い出したくないと述べるのであった．

4.5　四川大地震の復興期（永昌鎮）

今回の調査に協力した10人の教員のうち9人は今の永昌鎮に住んでいる.Iのみ永昌鎮から14.3キロメートルから離れた安県県城花荄鎮という町に住む．またAは地震前には亡くなった夫の社宅に住んでいたが、現在は、内縁の夫の家に住んでいる．国や復興支援省である山東省によって建てられた低額で購入できる集合住宅があるが、これは、曲山鎮の元住民にのみ購入の権利がある．

インタビュイー全員が、政府の「异地重建」という特別な政策により、通常より20年も早く発展したような恵まれた生活環境になったと言った．現在の生活や学校の施設にも満足しているようだ．しかし、DとFは曲山鎮に住んでいなかったため購入資格がなく、新たにより高額な住宅をローンで購入せざるを得なかった．Dは「生活が結構大変で、仕事にも疲れている」と述べた．

図6　永昌鎮市街
（本研究者が2011年12月に撮影）

図6は、「 异地重建」後の永昌鎮の様子である．

さらに、Cは再婚したが、元家族と現在の家族

の両方の面倒を見なければならない．継子のことについて、「厳しく接することが出来ない．何度か子供のため話したが、うまく受け入れていなかった」とのことであった．

皆は、現在の永昌鎮はまだ完成していないため、町らしくなるまでに時間が必要だと考えていた．例えばAは現在の商業施設は地震前と比べて、まだ完全ではないと述べた．

また、学校の生徒たちの学籍を管理している担任教員Bから得た情報によれば、永昌小学校は羌（チャン）族の生徒が総生徒人数の約 50%を占めている．そのため、綿陽市教育局からの指示と小学校校長をはじめ教員たちの努力の下で、永昌小学校は中国唯一の羌（チャン）族の自治県県城所在地の小学校として、特長ある教育内容と方法を展開しているという．

図 7 は、生徒達がチャン民族の舞踊の特長を取り入れたラジオ体操を行っている様子である．

図 7 ラジオ体操の様子
（本研究者が 2013 年 5 月に撮影）

5　考察

調査により、教員という学校と家庭に二重に責任を持つ特別な職業にある方々が、震災直後、救援期、復興期の異なった時期で体験したことが示された．ここでは、職場の違いや家族の被害程度の違いによる各時期の被災者の様相について考察する．そして新たな家族の再建に伴う課題及び雅安地震の状況についても考察を加える．

5.1　職場の違いによる検討

今回調査した B、C、G、H、J の 5 名のインタビュイーは、2008 年地震当時、被害がとても大きかった曲山小学校に勤務していた. この 5 人の中で G、H、J の 3 名はインタビューで地震直後の状況について語ることを回避した.また、この 5 名は、むしろ現在の生活状況や永昌小学校の変化について話したがるのであった. その他のインタビュイーの A、E、F、I の 4 名は、当時の地震状況を話してくれた．回避はトラウマティックスなストレス反応の一つであり、この簡単の比較から、元曲山小学校の教員は地震当時受けた心理的ストレスが他の教員より高かったと推測される．

一方、元曲山小学校の教員であるこの 5 名のインタビュイーは、震災による危機的体験と救助経験、救援期の野外テント学校、復興期の現在の永昌小学校まで、この 5 年間に様々な経験をしてきた．教員達は自らも同僚を失ったり生徒を失ったことへの喪失感と同時に罪悪感や無念な思いを経験したが、国、地方政府、国民からの援助や現在の恵まれた生活を大切に考えていた．インタビュー中に、今の生徒たちや永昌小学校、現在の仕事に対しての熱意も語った．この教員としての熱意が生徒たちの助けとなったと感じているようだ．

元曲山鎮出身の人ではない 5 名の中の 3 名（D、F、I）は、地震後に特別な待遇を受けられなく、住宅もローンで購入している．D は生活の疲れについて語っており、言い換えれば、特別な待遇を受けられなかった彼らは震災復興における生活ストレスを述べたのである．

5.2　家族の被害程度からの検討

表２にあるように、10 名のインタビュイーのうち 5 名の家族が被害を受けている．しかし、インタビューの中で彼らは亡くなった家族に関して簡単な言葉で家族構成が変化したことしか言わなかった．これは、地震から 5 年間が過ぎたが、不快な記憶を思い出したり、亡くなった家族や家族構成の変化を言いたくないという気持ちの現れだと考えられる．

それ以外の家族に特に変化がないインタビュイーは、家族の状況をある程度語った．このような大震災で、自分の家族が被害を受けなかったことがとても幸運なことだと思っているようだ．特に元曲山小学校で働いていた教員がそうである．これは幸運なことだと考え、社会に感謝する気持ちで生活を続けたいという．家族に変化があってもなくてもすべてのインタビュイーの生活は変化しており、新しい永昌鎮で生活を続けている．

5.3 新たな家族の再建についての考察

今回のインタビューの中で夫を失い、新しく伴侶を求めた人が２名いた（A と C）．こうした家族の再編によって、現在の新しい伴侶の家族と共に、元夫の両親の世話もせねばならないということであった．また、新しい伴侶にも子供がいる場合があるので、子供と新しい両親との関係も地震後の問題の一つである．継父母も実子ではないため、遠慮があり、子供も現在の継父母を以前の両親と比べている．A や C のように再婚などをした人は、他のインタビュイーが経験しない生活ストレスを経験していると考える．

5.4 雅安地震の状況についての考察

インタビュイーたちは、雅安地震の際に、5 年前の地震の様子を思い出しており、大災害からの影響が残る．しかし、慌てて取り乱したり、避難したりするような人は少ないので現実的な対応ができていると考える．

また、ボランティア活動を希望したり、寄付したりしたことは、自分たちの受けた多くの支援への感謝の表れであろう．

6　まとめ

永昌小学校の 10 名学校関係者に対する聞き取り調査によると、元曲山小学校の教員は四川大地震直後の話題を回避する人が多かった．家族の被害があるインタビュイーは特に元家族について回避した．また、曲山鎮に暮らしていた人は現在の生活に対する満足度が高く、これは政府の特別な政策が影響していると思われる．2013 年 4 月 20 日の雅安地震時に 5 年前の地震の影響は余りなかったようである．

ただ、今回の調査人数が少ないため、全体的な傾向とまでいうことは出来ない．また、災害後のストレスは 5 年後、10 年後、さらに長い期間の影響を確かめることも必要である．調査対象数を増やし、長期にわたる影響を確認することは今後の課題である．

謝辞

本研究の協力に対し蘇州大学陶新華副教授と北川県教員進修学校、永昌小学校の校長および教員に感謝します．

参考文献等

（1）百度百科ホームページ
<http://baike.baidu.com/view/3486152.htm>
（2）石川有三「四川大地震の起こり方と震度分布」
<http://www007.upp.so-net.ne.jp/catfish/shobou-ishikawa.pdf>
（3）凌星光，日中科学技術文化センター理事長
「当局の四川大地震への対応」
<http://scpj.jp/download/sichuan_dadizhen_taiou.pdf>
（4）新华网快讯（新华网快讯：新華ネットの速報）
<http://news.xinhuanet.com/politics/2008-06/18/content_8391394.htm>
（5）四川新闻网 2009 年 6 月 25 日文章《北川：新县城是如何选址的》
<http://scnews.newssc.org/system/2009/06/25/012072912.shtml>
（6）《民生周刊》2011 年第 20 期《新北川造成之路》
<http://paper.people.com.cn/mszk/html/2011-05/18/content_823444.htm?div=-1>
（7）百度百科ホームページ
<http://baike.baidu.com/view/4403622.htm>
（8）新華ネット 2009 年 5 月 7 日
<http://www.sc.xinhuanet.com/content/2009-05/07/content_16458293.htm>
（9）天府早報 2010 年 7 月 26 日
<http://morning.scol.com.cn/new/html/tfzb/20100726/tfzb389028.html>
（10）四川教育庁ホームページ
<http://www.scedu.net/chushi/web/1358841819.shtml>

注1：地震の規模マグニチュード Ms 8.0（中国地震局）、Mw7.9 (USGS)．中国地震局は当初地震の規模を M7.8 と発表していたが、その後の再解析で Ms8.0 に修正した．アメリカ地質調査所（USGS）は当初 Mw7.8 と発表し、後に Mw7.9 に修正した．

注2：中華人民共和国民政部は、中華人民共和国国務院に属する行政部門で災害での救援活動を管轄している．（中華人民共和国民政部ホームページより）< http://www.mca.gov.cn/ >

注3：老城区は日本の旧市街という．新城区は日本の新市街という．

注4：中華人民共和国国務院（簡：国务院）は、中華人民共和国の最高国家行政機関である（中華人民共和国中央人民政府ホームページより）< http://www.gov.cn/xwfb/gwy.htm>

注5：この名にした理由はその場所の隣町である「永安鎮」と「安昌鎮」の一文字を使ったのである．この二つの文字はその町の人々の永遠の昌運を願うという意味もある．

注6：龍門山断層は、中国・四川省北部にある龍門山脈

の下を走る断層である．（東京大学地震研究所 2008 年 5 月 12 日中国・四川省の地震について）< http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/topics/china2008/>

注 7：ポジティブ心理学（英語: positive psychology）とは個人や社会を繁栄させるような強みや長所を研究する、近年注目されている心理学の一分野である．ただ精神疾患を治すことよりも、通常の人生をより充実したものにするための研究がなされている．即ち、ポジティブ心理学は、デベロップメント・カウンセリングの一分野である．（一般社団法人日本ポジティブ学会ホームページより）< http://www.jppanetwork.org/>